

「アマチュア無線って楽しいけど、よく考えるとすげ〜不公平な事が一杯だよな。」

アマチュア無線でコンテストや珍局のパイルアップなどに参加したり、海外のDXを追いかけていると時々、そんな事を思う。

1: 住宅事情。

CQ誌で「シャック訪問」なんていう記事が載ることがある。

「その筋」では有名な局を訪問してシャックやアンテナを見せてもらう記事だが、大体が地方で、広大が土地にタワーを何本も建て、それぞれに「モノバンドのビームアンテナ」を上げていて、出力もKWだったりすることが多い。

出力はそれぞれの免許の範囲なのだけど、アンテナは免許の種類に関係なくどのくらいのアンテナまで上げられるか、また、上げられないか、が、各自の住宅事情で変わってくる。

430MHzや50MHzの移動局で、「家ではQ R Vが出来ないので、100%移動運用です。」と話しているのをよく聞く。

集合住宅などはアマチュア無線が出来る所もあれば、禁止の所もある。禁止となれば移動運用のみでQ R Vするしかない。

戸建て住宅でも近所との関係や隣家との距離や密集度、庭の有無や広さ、屋根の形状などで、満足にアンテナを建てられないことも多い。

家族の理解というファクターも侮れない。よく「家庭内SWR」という表現をするが、これは非常に重要だ。WVRも家庭内SWRのために「内緒っ!」という出来事もあったり無かったり。

先日もFT-8でDXを追いかけている時、100Wで送信するとどこかで「ウィーン」と音がする。送信を止めると音が止まる。それがこの数日ずっと続いていて、「何なんだ?」と気になっていた。送信中に部屋中の機器に耳を近づけて「これかな?」と調べてみるが違う。すると、どうやら部屋の外から「ウィーン」と音が聞こえてくる。部屋のドアを開けると、廊下に置いてある掃除機。自分用の掃除機でシャックや廊下の掃除用。コンセントを差しっぱなしにしているが、送信すると自動でスイッチが入って掃除機が動き出す。

なんと、「掃除機I」(そうじきアイ)だった!

TVIやBCI、テレフォンIやアンプIなどは一般的だが、まさか掃除機Iがあるとは!

面白かったので、奥さんに言おうかと思ったが、いやいや、藪蛇で無線禁止になるとヤバイ。ここは、「黙ってような〜!」で行こう。

自立タワーにビッグアンテナの局、ルーフタワーで小型〜中型アンテナの局、屋根にGPの局、ベランダにアンテナを取り付けている局、ベランダからハンディ機と附属ホイップでQ R Vの局、集合住宅で無線禁止のため移動運用オンリーの局、アンテナを上げられる敷地や屋根があるが家庭内SWRのために移動運用のみの局、などなど。住宅事情も様々で、アンテナが違えば電波の強さや耳の良さに違いが出る。コンテストで同じクラスだとしてもアンテナの違いは大きい。決して公平とはいかないのだ。

2: QTH (運用場所)

特にコンテストでは最重要項目のひとつ。

電波の飛びが良い場所は場所取り合戦も熾烈だ。

アマチュア無線をやっていると、見晴らしの良い場所があるとすぐ、「ここは電波が飛びそうだ」なんて思う。自分もそう。〇〇(WVR)と煙とハムは高い所に登りたがる。

普通のスポーツは、コートやフィールドなど、決められた場所で行うので場所の不公平はほとんどない（風上風下などは多少ある）が、アマチュア無線は電波の飛びが良い場所を取った者が有利。なので各局はあちこち電波の飛びが良い場所を探してQRVする。コンテストでお目当ての場所を確保出来れば良いが、そうもいかない時も多い。良い場所を取れた局と取れなかった局、その場所の違いはそのままハンディとなってしまう。運用場所もコンテストでは公平にすることは出来ないのだ。コンテストに限らず、通常の交信においても、QTHの良し悪しに左右される。福生、昭島、立川などの局が2mや430で2エリアなどに59を送っているのを聞くが、多摩川西岸のあきる野市では、カスカスカ、まったく入感しないことも珍しくない。関東地方というマクロ的な目でも、西方面に対しては多摩地区などより、千葉、茨城などのほうが条件が良く、八木などで狙えば遠距離交信も可能。都道府県においても有利不利がある。故に、運用場所においても、その場所の違いが電波の飛びに直結する。公平では無い。

3: 出力

DXや珍局でパイルアップになっている場合、特にSSBやCWの場合、圧倒的に大出力の局が有利。なので必然的にパワー合戦となったのはご存じだろう。FT-8は少し事情が違って、大出力の信号の場合、DXペディションではある程度以上の強度の信号はブロックし表示されない設定だそう。FT-8は、電波の強度に関係なく、信号は一行の文字列として表示される。信号強度の違いはあるが、一行は一行。強い局の信号が沢山表示される訳では無い。どの局にコールバックするかは相手次第。SSBやCWの様なパワー合戦にはならない。とは言え、信号が弱いと届かなかったり、混信に潰されたりする。その観点から言えば、FT-8でもある程度パワーは必要だ。自分の経験からすると、50Wあれば世界の中でも戦える。もちろん、もっと強い局は山ほどいる。だが50W以上あれば十分戦えると思う。人によってはFT-8でも最低200Wは必要だと言う人もいる。だが、50Wでも100Wでも200Wでも、繋がる時は繋がるし、繋がらない時はいくら呼んでも繋がらない。要は電離層のコンディション次第だ。そういう訳で、FT-8は比較的パワーに左右されにくい、前回のブーベ島のペディションでは、強い局からピックアップしていき、信号の弱い局は交信出来なかった。強い信号で弱い信号はブロックされてデコード出来なかったのかも知れない。その意味では、やはりある程度パワーがあるほうが有利だ。

結論

みな自分の環境の中で不公平を乗り越え、「より楽しめて良くなるように」工夫している。上を見たらきりが無い。自分に許された範囲の中で、アンテナを工夫したり、オペレーションを工夫したり、それぞれの目標を立てたりしている。Eスポのパイル時SSBやCWで、強い局より先にピックアップされるのはとても爽快だし、FT-8でもそう。また、他局とは関係なく自分の目標に向かうのも楽しい。JCC、JCG、DXCC、WAS（米国の州）、その他沢山のアワードに挑戦、コンテストに参加する、QRPに拘って運用する、移動運用でパイルを浴びる、SOTA、POTA、IOTA、アンテナの自作、など、自分自身が「どういう楽しみを見つかるか」によって面白さが違ってくると思う。時には他局の設備が羨ましく思えることもあるが、羨ましがたって仕方ない。自分は自分の道を行く。それが一番アマチュア無線を楽しめるだろう。

と、半分強がっているWVRでした。